

菊池地域の農業、農協が「未来永劫」に「共存共栄」し、成長するよう努力いたします

新型コロナウイルスから景気が回復しつつも、ウクライナ侵攻等による生産資材、肥料、燃料、飼料高騰による経営収支の悪化など農業を取り巻く情勢は多くの課題が山積しています。このような中、代表理事組合長を拝命いたし身が引き締まる思いであります。

今後の農家経営にとって何が必要なのか、変化に対応出来る組織力と仕組み作りを更に構築し、組合員、利用者の皆様の声に丁寧に対応して参りたいと思います。また、菊陽町に進出する半導体企業、関連会社につきましても多くの心配する声をいただいております。特に農地の減少、地下水に関しましては、地元のJAとして国や県といった行政に対し、循環型農業、土地利用型農業に取り組み「地域を」「農地を」「緑を」「水を」守り育み、農畜産業に取り組みで来たことが継続出来るよう要請してまいります。

熊本県域JA構想につきましては、時期尚早であるとの判断で、現在示されているJAくまもと基本構想に基づいて設立される熊本県農業協同組合(JAくまもと)には、設立当初からの参加は見送ることとしました。しかし、JAグループとして連携強化に取り組み、先人達が努力で築き上げられた生産基盤、数多くの事業を継承していきたいと考えております。

前任の三角組合長の功績に感謝を申し上げ、組合員・役職員一丸となり菊池地域の農業、農協が「未来永劫」に「共存共栄」し、成長するよう努力しますことをお約束しまして就任のあいさつといたします。



代表理事組合長
東 哲哉

就任のごあいさつ

常勤役員退任就任式



東組合長 就任あいさつ



大島副組合長 三角組合長 佐々常勤監事



勇退されました役員を職員が拍手で見送りました

勇退されました三角修組合長、大島洋副組合長、佐々春一常勤監事の退任式と新役員の就任式を7月1日、パシオン大ホールで行いました。退任のごあいさつ、就任のごあいさつをいただき、花束を贈呈し、退任の方々を全職員の拍手で見送りました。

常勤役員退任・就任式



菊池地域の農業振興に努力します

先のJ A菊池第34回通常総代会後の理事会に於きまして代表理事副組合長に選任され、就任いたしました。大変身の引き締まる思いです。

さて、昨年からのウクライナ情勢の長期化や為替変動などによる海外情勢の影響等で、飼料をはじめ生産資材、燃料価格の高騰により、今までとは比較にならないような経営環境に直面しています。また、世界的半導体企業と関連企業の管内進出により、農業基盤が大きく変貌しようとしています。

このような中、J A菊池としましては経済事業改革を目的に、自己改革タスクフォースを立ち上げ取り組みを始めています。更に、熊本県域J A構想につきましては、時期尚早として合併については見送っております。今後はJ A菊池役職員一丸となり、菊池地域農業の振興と組合員の生活を守るために取り組んでまいります。組合員皆様のご指導・ご支援をお願い申し上げます。



代表理事副組合長
森 正晴

職員の経験を活かし誠心誠意努力します

先のJ A菊池第34回通常総代会後の理事会に於きまして常務理事として選任いただき、大変身の引き締まる思いです。

新型コロナウイルスの発生から3年が経過し、この間に国際情勢の大きな変化があり、農業とJ Aが置かれた事業環境は、農業生産費の異常なる高騰となり重い経営課題となっています。生産基盤維持への対策と共に重要な課題と認識しています。

常勤理事の職責を果たすために職員経験を活かし、組合長、副組合長の指導を仰ぎながら、組合員の皆様の信頼に応えるため誠心誠意努力いたします。今後も皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。



常務理事
斉藤 健

地域と共に歩み 期待と信頼に応えるJ Aづくり

この度、J A菊池第34回通常総代会後の監事会に於きまして、常勤監事として選任いただきました。その責任の重さを改めて痛感し、一意専心の気持ちで職務に精励してまいります。

監事は独立の立場の保持に努め、常に公正不偏の態度を保持し、J Aの健全性に寄与するとともに、社会から信頼される良質なガバナンスを維持する責務を負っております。

また、現在当組合は「不断の自己改革」として、主に経済事業を中心に、収支改善を目的に「J A菊池自己改革タスクフォース」に取り組みながら、昨年度から適用された「早期警戒制度」へも対応しつつ、更なる事業運営の健全性を確保するための監査を行ってまいります。

結びになりますが、組合員、役職員の皆様には、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



常勤監事
赤星 成年

先人に感謝し、JA菊池の 未来永劫を祈ります



前代表理事組合長
三角 修

J A 菊池の理事に就任し非常勤理事 2 期、副組合長 2 期、組合長 3 期と合計 21 年もの長きに亘り、役員としての役目を果たすことができましたのも、組合員、役職員の皆様、そして国、県、市町、J A グループの多くの方々のご指導、ご支援のお陰と感謝申し上げます。

また、合併当時から人づくり、教育に歴代の組合長が取り組んでこられた J A 菊池の伝統と、先人達が節目でいろんな仕掛けをしながら成果を得られていたからこそ次のステップへ進めることが出来たと思っております。

振り返りますと、平成 14 年の理事就任時は、計画に基づき組織整備が最終段階となり、理事定数も変更。平成 20 年の副組合長就任時は、リーマンショックにより飼料、燃油資材等の値上がりによって農家は経営収支が合わず、国、県の高騰対策資金 25 億円を融資。農家、農協は持ちこたえられるだろうかと当時の川口組合長と心配しました。その後も、漏電による粗飼料センターの火災、宮崎で発生した口蹄疫、九州北部豪雨、台風 15 号襲来と、次々に試練を与えられました。

その間、全国に先駆けて始めた飼料用米の作付が順調に進み、ホルスタインに与えて「えこめ牛」として販売。大玉のイチゴ「ひのしずく」を販売し、くまモンキャラクター 1 年目に黒箱に採用。福祉の充実として有料老人ホームの建設、斎場「虹のホール」第 2・第 3 の建設。セルフ S S の開設などが進む中、農業危機突破大会、T P P 交渉参加反対集会なども開催。職員の創造力の育成、職場風土の醸成のための小集団活動も始めました。

平成 27 年には、新茶摘採時に阿蘇山の降灰で打撃を受け、28 年には熊本地震の発生で更なるショックを受けました。そんな中でも女性部による炊出しや職員の適切な行動には相互扶助の精神が活かされ、地域の方々から感謝の言葉を多くいただきました。全国の J A グループをはじめ多くの国民の皆様からの励ましの言葉やご支援をいただいたことは一生忘れるものではありません。

畜舎の復旧等がやっと終わったところ令和 2 年の年明けには、新型コロナウイルスが発生。バックアップ体制により、BCP を維持してクラスター発生防止に努めました。その後もウクライナ侵攻による世界情勢の変化に農業環境も厳しい状況が続いています。

そのような中でも、農業振興では畜産クラスター協議会設立、菊池水田ごぼう G I 取得、まんまキッチン竣工、生乳 8 万トン突破、繁殖牛 5000 頭突破、東京農業大学との包括連携協定によるカスミソウ酵母による日本酒「花純」や堆肥入り複合肥料「エコぷらす」の完成。教育文化関係では青壮年部のチャレコン大会・婚活ツアー、家の光文化賞他 4 部門グランプリ獲得、全国広報準大賞、飼料用米活用全中会長賞、地下水保全顕彰認定。また、移動購買車の運行等、J A 菊池は前進し続けています。

「協同組合は教育に始まり、教育に終わる」と考えます。熊本 J A 県域構想の議論の中でもそれを感じることが出来ました。組合員の皆様のご多幸を願い、J A 菊池が未来永劫でありますようご祈念申し上げます。退任のあいさつといたします。ありがとうございました。

感謝 創 挑 育 積 続 変 新 熟 成